

# とぎつ

令和8年  
第1回定例会

NO.181

2026年4月17日  
発行

継つぎ休やすみ

発行：長崎県時津町議会



# 鳴北中学生が 議会傍聴に！

## 議会だより

特集

- \* 中学生傍聴記 ..... 22 ~ 23
- \* 先生からのメッセージ ..... 24



令和8年度

# 施政方針



時津町長 山上 広信

本年度は、「人口減少対策」を引き続き取り組むとともに、「高齢者への施策」「子育て支援」「交流人口の拡大」「都市基盤・生活道路の整備」「商工業・農林水産業の振興」など、多方面にわたる施策を推進し、更なる安心安全な町の発展に繋がっていきます。

新たな取り組みとして、本町のブランド力を高めるため、オフィシャルアンバサダーを認定し、町の魅力を国内外に発信します。

また、高齢者の健康と安心な暮らしを守ると共に、住み慣れた地域で、生きがいを持って生活できるように、高齢者支援の充実を図ります。

併せて、歩くまちづくり事業の推進を行います。

さらに、シニアクラブ生きがいづくり事業や、地域支え合い活動補助金の支援を継続し、高齢者向け配食サービス事業を開始します。

核家族・少子化社会にあっても、安心して子どもを産み、子どもたちが健やかに暮らすことができる環境づくりを目指すため、時津町立学校に医療的ケア看護師を設置します。

また、時津保育所に屋外遊技場を新設します。

さらに、中学生の英語力向上のため外国人講師と一对一の会話を楽しむ「英語コミュニケーションサポート事業」を開始します。

都市基盤・生活道路の整備に引き続き積極的に取り組みます。

また、「時津中央第2土地区画整理事業」の早期完成を目指します。

商工業・農林水産業の振興については、「ふるさと寄付金」の積極的な取り組みを通じて、産業振興を図ります。

また、とぎつワイン特区の認定を受け、ワインリー事業への支援を行います。

今年度も「まちづくり懇談会」を開催しますので、ご参加ください。



# 令和7年度 主な補正予算・条例改正



町立小中学校照明設備改修事業 (LED化) 1億5千57万4千円



時津公民館別館の解体  
令和8年8月以降の解体に伴い関連条例を改正



時津町公共水道・下水道条例の一部を改正  
災害時において、他の市町村の管理指定を受けた者は、工事施工が可能になる。

## 令和8年第1回定例会（3月議会）の議案及び賛否

議案番号	議案名	審議結果	内田	鳥居	永田	古谷	森	大塚	平埜	川原	浜辺	中原	久保	新井	濱崎
			裕三	浩一	博信	文夫	孝太郎	俊久	靖	貴光	なみえ	ゆう子	哲也	政博	幸徳
第6号	時津町国民健康保険税条例の一部を改正する条例	可決	○	○	○	○	○	○	○	○	●	○	○	○	○
第17号	令和8年度時津町一般会計予算	可決	○	○	○	○	○	○	○	○	●	○	○	○	○
第18号	令和8年度時津町国民健康保険特別会計予算	可決	○	○	○	○	○	○	○	○	●	○	○	○	○
第19号	令和8年度時津町後期高齢者医療特別会計予算	可決	○	○	○	○	○	○	○	○	●	○	●	○	○
第20号	令和8年度時津町介護保険特別会計予算	可決	○	○	○	○	○	○	○	○	●	○	○	○	○

○：賛成 ●：反対 △：退席 欠：欠席 ※議長は裁決に加わらないため、掲載しておりません。  
※紙面の都合により、今回提出された28議案のうち、反対のある議案のみ掲載しています。

予算審査特別委員会審査報告

令和8年度一般会計・特別会計予算等を可決

令和8年第一回定例会本会議において、予算審査特別委員会に付託された議案審査のため委員会を開催、審査の中で多くの質疑を交わし、議案第17号から議案第22号まで原案通り可決した。

令和8年度 予算総額  
137億7,860万3千円

主な予算を抜粋して報告する。

英語コミュニケーション事業

予算 1千165万9千円

一人一台端末を使用して中学生のオンライン英会話。

フィリピンの講師と1対1でテーマを決め、中学3年生は年6回、中学1、2年生は年8回で、一回25分間で行う。



佐賀県上峰町のオンライン授業風景

元PTA連合会会長  
木村 凌さん



間違いを恐れずに、英語で自分を表現する楽しさを知って欲しいです。

町立小学校給食食材購入委託

予算 9千712万3千円

小学校給食完全無償化。



安心・安全の美味しい給食

元村一育成会会長  
中村 信洋さん

この支援は社会からのエールと受け止め、子どもが将来社会を支える側になれるよう、食育や教育を大切に教えていきます。

自治会活動費補助金

予算 252万5千円

自治会加入・未加入を問わず、地域住民が広く参加できるイベントであることや、自治会未加入者へ加入促進を行う広報啓発費。



自治会活動で育む地域の絆  
出会い ふれあい 助け合い

障害者福祉医療の現物給付

予算 4千945万5千円

身体障害者手帳1・2級、療育手帳A1・A2、精神保健福祉手帳1級所持者の、425名が対象者である。

保育所改修事業

予算 2千134万8千円

園舎と別棟を繋ぐ渡り廊下の修繕  
・猛暑対策として安全な活動スペースを確保するための屋外遊戯場として整備する。

高齢者向け配食サービス

予算 78万円

住民税非課税世帯で65歳以上のひとり暮らしの高齢者や高齢者のみの世帯などを対象に、1日1回夕食を配達し、1週間当たり3回の利用を限度としている。



配食サービス

とぎつ魅力発見フェスタ事業

予算 1千900万円

・とぎつ夏まつり・産業まつりの後継事業であり、町全体をフィールドとした事業である。



新たな発見を目指すフェスタに! 乞うご期待!



時津オフィシャルアンバサダー  
荒木 愛梨さん

フェスタの情報をどんどん発信していきます! ぜひ一緒に時津町を、盛り上げましょう!

時津町オフィシャルアンバサダー

予算 10万4千円

・34名のオフィシャルアンバサダーを認定し、各自のSNSにて本町の魅力を国内外に発信して頂く。



時津オフィシャルアンバサダー  
いそじーず



今すぐ時津町へ行きたい! と思って頂けるよう、心を込めて発信していきます。

郷土芸能大会等出場補助金

予算 500万円

・今までは、一か所に集まって郷土芸能を披露したが、8年度は魅力発信フェスタや他のイベント時など分散して披露する予定。



野田郷の「黒丸踊り」



西時津郷の「志賀団七踊り」

カナリーホール改修(繰越事業)

予算 約6億5000万円

・令和7年度からの改修であり、令和8年度内の完了予定である。  
・池を撤去し、障がい者用の駐車場を整備する予定。  
・屋上改修に合わせ、鯖くさらかし岩まで辿り着ける散策路を整備。  
・全トイレを温水洗浄便座に



時津町の中心となる施設へ

公民館別館解体工事

予算 2千843万7千円

・令和8年度内に解体は完了する予定であるが跡地の活用については、検討中である。



8月より解体予定

「行かない窓口」、「書かない窓口」

予算 3千259万4千円

・「行かない窓口」  
税以外の介護保険料や水道料金などの税金に関して、令和9年度から役場や金融機関に行かなくてもスマホ等で支払ができるよう、令和8年度にシステム改修を行う。  
また、町公式LINEを活用した各種手続き機能の追加に取り組む。



役所窓口に行かず、行政手続きを完結させる「行かない窓口」

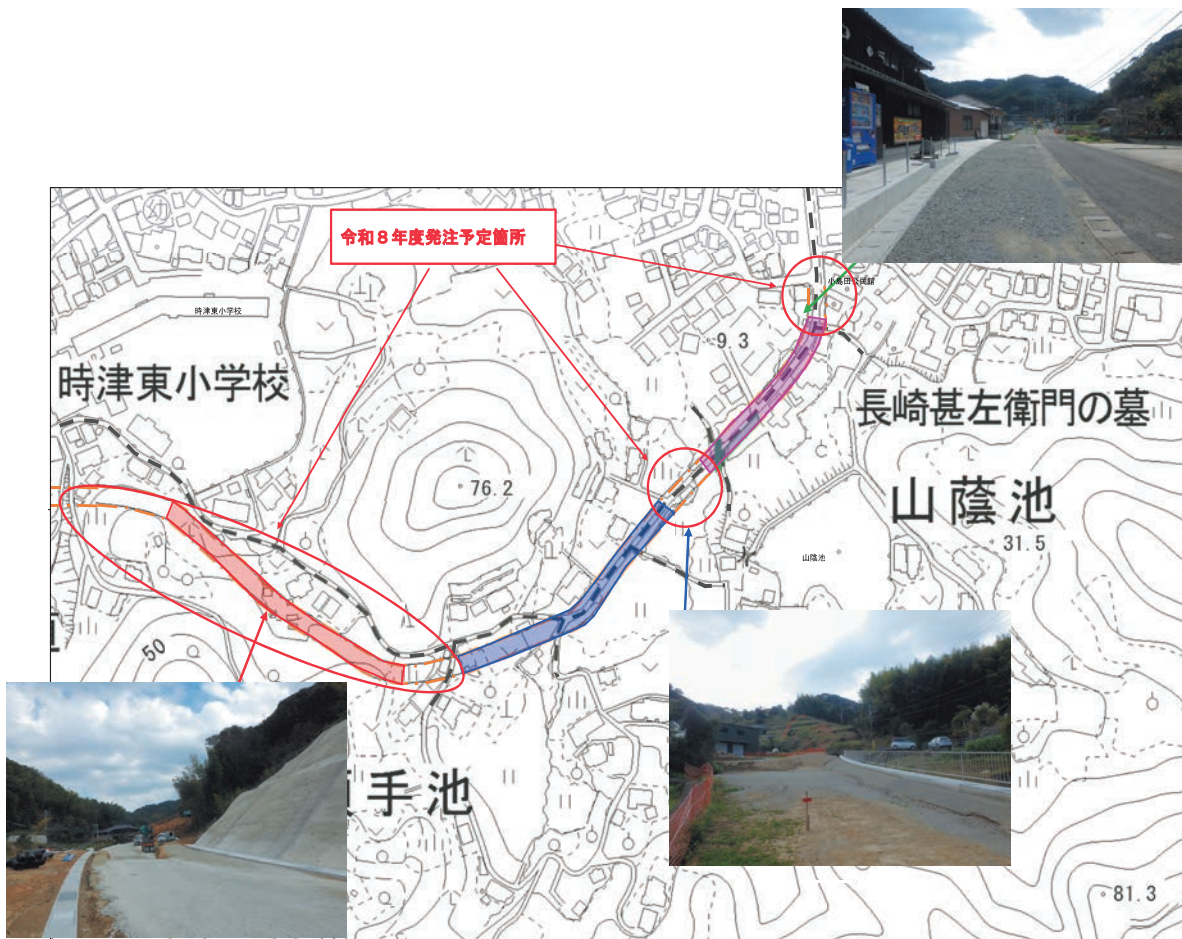
・「書かない窓口」  
令和8年度は、住民の利便性向上や職員の事務効率化に繋がるシステム導入を検討し、導入に向けた準備を進める。



窓口で申請書を書かない「書かない窓口」

西時津小島田線（打越工区）  
道路事業

予算 3億9千550万円  
令和8年度内完成を目指す。



河川土砂浚渫事業

予算 1千697万1千円  
長八川、日並川、入船川など  
の河川における土砂浚渫を予定。



急傾斜地崩壊対策事業

予算 6千100万円  
令和8年度は、4地区を予定。  
元村藤ノ尾地区 700万円  
左底石橋地区 300万円  
西時津田下地区 2千300万円  
左底宮園地区 2千800万円



【三役、関係部(局・次)長質疑】

三役、関係部(局・次)長と質疑を行い、様々な質疑がありました。紙面の都合上、教育長答弁を記載する。

Q 特別支援学級や通級の子どものための総合的なケアを、今後どのように考えていくか。

また、障がいを持った児童生徒に対する学習支援の充実の考えは。

A 本町においては増加する特別支援教育の受け皿として、質の面では教育員の特別支援教育に対する知識や専門性の向上を目指して研修内容の充実を図りながら、人員配置など量の面では、求められる教育支援員の配置や教育相談員を活用して、障がいを持つ子どもや発達にまずきがある子どもたちの学習支援の充実を図っていきたく考えている。

更に、教育支援員に関して、他市町は兼務であるところ、時津町では教育支援員16名に加えて、看護師の手の空いた時に、5.5時間フルに教育支援に当たっていただくことになっている。

また、時津町は配属の学校に張り付きで、受け持った子どもに対して責任をもって毎日支援を行っており、その支援の体制が望ましいと考えている。

教育支援員の配置も以前より増え、看護師も配置でき、充実した特別支援教育へと進んでいると考えている。

## 討論・採決

### 議案第17号

#### 令和8年度時津町一般会計予算

##### 〈討論〉

##### 反対討論

中学校給食費の無償化や学校体育館へのエアコン設置、補聴器購入への補助などの予算が組み込まれていない。物価高騰で苦しむ地元業者のみならず、人材不足と経営難で苦しむ介護事業所への直接支援がない。

以上のことを述べて反対討論とする。

##### 賛成討論

なし

##### 採決

議案第17号は、賛成多数により、原案のとおり可決すべきと決した。

### 議案第18号

#### 令和8年度時津町国民健康保険特別会計予算

##### 〈討論〉

##### 反対討論

国民健康保険税に、新たに「子ども子育て支援納付金」が追加される。税でも保険料でもない新たな負担を公的医療保険に含めるのは筋違いの制度であり、絶対容認できない。

さらに、急激な物価高騰に拍車がかかっており、国税負担は負担能力の限界を超えている。

本町の国民健康保険財政安定化基金も活用して、国税の引き下げに踏み切ることを求めて、反対討論とする。

##### 賛成討論

なし

##### 採決

議案第18号は、賛成多数により、原案のとおり可決すべきと決した。

### 議案第19号

#### 令和8年度時津町後期高齢者医療特別会計予算

##### 〈討論〉

##### 反対討論

大変な物価高騰による大幅な負担増が続くなかの引き上げで、受診抑制が起きることは確実で、病気の悪化、命にかかわる。

減らされてきた高齢者医療への国庫負担を抜本的に増額し、高齢者・国民の負担軽減を進めるべきだと述べて、反対討論とする。

##### 賛成討論

なし

##### 採決

議案第19号は、賛成多数により、原案のとおり可決すべきと決した。

##### 賛成討論

なし

##### 採決

議案第19号は、賛成多数により、原案のとおり可決すべきと決した。

### 議案第20号

#### 令和8年度時津町介護保険特別会計予算

##### 〈討論〉

##### 反対討論

「保険あって介護なし」という状況の中、国に介護保険の国庫負担金引き

上げを求め、本町としても町民負担軽減に努力することを求め、介護保険財政調整基金を介護保険料の引き下げに活用すべきと述べて反対とする。

##### 賛成討論

なし

##### 採決

議案第20号は、賛成多数により、原案のとおり可決すべきと決した。

### 議案第21号

#### 令和8年度時津町水道事業会計予算

##### 〈討論〉

##### 反対討論

なし

##### 賛成討論

なし

##### 採決

議案第21号は、全委員異議なく、原案のとおり可決すべきと決した。

### 議案第22号

#### 令和8年度時津町下水道事業会計予算

##### 〈討論〉

##### 反対討論

なし

##### 賛成討論

なし

##### 採決

実際5カ年事業で完成した際に、人口動態の懸念がある。

その問題を指摘して賛成討論とする。

##### 採決

議案第22号は、全委員異議なく、原案のとおり可決すべきと決した。

## 産業厚生常任委員会審査報告

委員長 久保 哲也

令和8年第一回定例会本会議において、産業厚生委員会に付託された議案審査のため委員会を開催、審査の中で質疑を交わし、議案第23号は、原案のとおり可決した。

### 議案第23号 町道の路線認定について(日並線)



起点 日並郷字中曽根 2213 番 12 地先



終点 日並郷字赤崎 1 番 2 地先

##### 〈討論〉

##### 反対討論

なし

##### 賛成討論

なし

##### 採決

議案第23号は、全委員異議なく、原案のとおり可決すべきと決した。

# 令和8年1月の議員活動報告



## 産業厚生常任委員会行政視察（耕作放棄地の有効活用について）

### 愛知県長久手市議会

1月15日（長久手田圃バレー基本計画）



「アグリサポート事業」により、事前相談から出荷までを支援する。新規就農者には、「農アドバイザー事業」にて相談ができ、また、農地を借りることができるよう、「農地マッチング支援事業」を展開、遊休農地解消に努めている。

長久手市の市民農園では、水道や道具入れの倉庫が、整備されている。



### 京都府下京区東塩小路町

1月16日（㈱マイファーム）

全国の遊休放棄地等を借り上げ、農地マッチング事業で観光農園や体験農園事業などの全国展開を行っている会社。「自産自消」のできる社会をつくるが、会社の定義である。

## 議会運営委員会行政視察（主権者教育、議員の出前授業について）

時津町の投票率の低さ、若者の政治に対する関心の無さを少しでも改善するために、議会として何ができるかを考えた時、若い人への政治と自分との関わりを知っていただくためにどうしたら良いか話し合い、直接小中学生に議会の役割を伝えることができればと考え、先進地である、山鹿市とみやき町への行政視察を行った。

山鹿市議会の取り組みで、マニフェスト大賞で取り上げられた絵本の「ポリポリ村のみんなしゅしゅぎ」に注目し、この絵本を読んだ後に児童に投票させる。投票箱は選管から調達、投票用紙は議会事務局の手作りで行った。

### 熊本県山鹿市議会

1月27日（山鹿市役所）

議会による小学校の5、6年生への出前授業について説明を受ける。



### 佐賀県みやき町議会

1月28日（みやき町役場）

議会による中学校への出前授業について説明を受ける。

# 一般質問

■ 質問内容は  
事前通告制です

## 新井 政博 議員

10



1. 「NHK のど自慢」の誘致について
2. 認知症グループホームについて

## 鳥居 浩一 議員

11



1. 選挙の投票について
2. 2025年度体カテストについて
3. 高齢者の補聴器購入について

## 濱崎 幸徳 議員

12



1. 消防団員へのインフルエンザ予防接種について
2. 物価高騰対応重点支援地方交付金の使途について

## 森 孝太郎 議員

13



1. 児童、生徒を主体的な教育に改善していく小中学校の現状について
2. 町の魅力について

## 中原 ゆう子 議員

14



1. 働く場について
2. 人権擁護委員などの処遇について
3. 町内の道路事情の改善について

## 古谷 文夫 議員

15



1. プラスチック製容器包装とペットボトルのゴミ出し及び処理について
2. 街路樹周辺の環境美化について

## 久保 哲也 議員

16



1. 高齢者に「夢と希望」を
2. 「唾飲城」を里山公園に

## 浜辺 なみえ 議員

17



1. 子育て支援について
2. 物価高騰への対策について
3. 介護保険制度について

## 川原 貴光 議員

18



1. 「カキ焼き」イベントについて
2. きくらげを町の特産品にすることについて

## 永田 博信 議員

19



1. 中学生のオンラインによる英会話授業について
2. 地域活性化への取り組みについて
3. ふるさと歴史散歩ガイドブック（仮称）について

\*各議員の一般質問は、録画放送をQRコードよりご覧になれます



NHKのど自慢誘致で全国にPRを

町の魅力を発信する取り組みとして検討する

山上 町長

「NHKのど自慢」は、1970年にタイトルが変更されてから現在に至るまで放送されている長寿、人気番組である。

カナリーホールリニューアル完成時に、本町で、のど自慢が開催できれば、「まち」を全国的にPRする起爆剤になると思う。

是非、誘致をし、本町のPRにつなげて頂きたいと考え、次の点について伺う。



大村市にのど自慢がやってきた

Q カナリーホールのリニューアルオープンを知らせるのに、いい機会と思っているが、町の考えは。

A リニューアルオープンは10月から11月頃を予定しており、NHKに確認したところ、最短期間でも令和9年度以降の実施となる見込みであり、リニューアルオープンと同時に開催は難しいが、町のPRにつながる機会と考え、開催の実現に向け、果敢にチャレンジしてみたいと考える。

Q 誘致申請は、どのようなスケジュール手続きが必要か。

A 申請は、例年4月頃にNHKから各自治体に案内文書が送付され、地元担当者の会場下見、東京NHK本部で、申請内容とスケジュールを考慮しながら調整・検討、最終的に実施可否が決まるが、全国からの申請が多く、競争率が高い番組である。

Q 町とNHKとの業務分担と経費負担はどのようになっているか。

A 自治体側が放送制作以外の業務全般を担当、NHK側は、放送を通じた広報など、番組制作や放送に関する業務全般を担う。

経費分担については、自治体側が会場使用料など、当日の運営経費を



大村市にのど自慢がやってきた

負担、NHK側は、出演者の出演料など番組制作に直接かかわる経費を負担する。

Q 開催と同時に大村湾やホール周辺でのイベントなどを計画・立案できると思うが、町の見解は。

A NHKのど自慢の開催が実現した場合には、多くの来訪者が見込まれ、カナリーホール周辺や大村湾エリアを含め、町全体の魅力を体感して頂けるよう検討して行く。

Q 申請するためのプロジェクトの立ち上げも必要ではないか。

A 申請段階では、戦略推進課が中心となり、関係課と必要な調整を行いながら、申請に向けた検討や準備に取り組んでいく考えではあるが、現時点では、特別のプロジェクトチームを立ち上げることは考えてない。

施設職員の地位向上を図れ

介護労働者の処遇改善を県・国に要望して行く 山上 町長

Q 本町では、認知症グループホームに入居するには、一定の期間本町に住所を置く必要があるか。

A 入居直前の過去1年間、町内に住居を有する人、例外として、町民でない方が入居する場合は、町内に親族の身元引受人の支援が可能な人。

Q グループホームで勤務する職員の地位向上に、町として何らかの対応が必要ではないか。

A 本町の介護職員全体の地位向上を図るための効果的な施策を協議していきたいと考えている。

Q 近年の異常なほどの物価高騰に対応した支援が必要ではないか。

A 限られた財源の中、物価高騰の影響を受けた生活者の支援を行うとしていたため、認知症グループホームに特化した支援は考えていないが、介護事業所は、国が定める介護報酬などで運営されており、県などと連携し、国に対し働きかけをしていく。



鳥居 浩一 議員



録画放送はこちらから

投票時間短縮の影響は

影響は、無かった

選挙管理委員会委員長  
職務代理者 山上 富美子委員

**Q** 令和8年2月8日は、長崎県知事選挙・衆議院議員選挙のダブル選挙が実施された。

今回より当日投票所の閉所時間を午後8時から午後6時と、2時間の繰り上げを行ったが、影響は無かったか。

**A** 今回の衆議院議員総選挙の期日前投票所における投票者数が、前回と比べて、約2千600人増加し、



期日前投票の様子

投票率が、前回と比べて、5.25ポイント上昇し、さらには、全国や長崎県の投票率の上昇を上回っていることから、当日投票所の閉所時間を2時間繰り上げを行ったことによる投票率等への影響は無かった。

**Q** 今後の選挙への投票率向上への取り組みは。

**A** 各種の啓発活動を積極的に行い、特に町公式LINE、町公式インスタグラムなどのSNSを活用し、若い世代への啓発力を入れるとともに、子連れ投票を推進し、子どもに選挙を身近に感じてもらうことや、小中高生を対象とした主権者教育に力を入れたいと考えている。さらに、投票率が高い他市町の取り組みを研究しながら投票率向上に努めたいと考えている。

全国体力テストの結果は

小学5年女子と中学2年男子が全国平均を上回った 相川 教育長

**Q** 令和7年12月22日に長崎県教育委員会が、小学5年生と中学2年生を対象とした2025年度全国体力テストの結果を公表した。

本町の小学5年生と中学2年生の結果はどうか。

**A** 小学5年生のテスト種目は、

- ・握力
- ・上体起こし
- ・長座体前屈
- ・反復横とび
- ・20メートルシャトルラン
- ・50メートル走
- ・立ち幅とび

ソフトボール投げの8種目。

全国平均を上回った種目は、男子では、上体起こし・反復横とび・20メートルシャトルラン・50メートル走・ソフトボール投げの5種目。女子では、握力・反復横とび・20メートルシャトルラン・50メートル走・立ち幅とび・ソフトボール投げの6種目。

中学2年生のテスト項目は、  
 ・握力  
 ・上体起こし  
 ・長座体前屈  
 ・反復横とび  
 ・20メートルシャトルラン  
 ・50メートル走  
 ・立ち幅とび  
 ・ハンドボール投げの8種目。

全国平均を上回った種目は、男子では、上体起こし・反復横とび・20メートルシャトルラン・50メートル走・立ち幅とび・ハンドボール投げの6種目。

女子では、反復横とび・20メートルシャトルラン・立ち幅とびの3種目。

これらの全種目の点数を合計した体力合計点では、小学5年生の女子と中学2年生の男子が全国平均点を上回っている結果となった。



補聴器の種類

補聴器購入時の一部助成は

町独自の助成は、現在のところ考えていない 山上 町長

**Q** 高齢に伴い聴力の低下は、避けては通れない道である。

聞き取りが困難な状況は、認知症の進行にも繋がる大きな問題である。補聴器は高価な物であるが為に購入をためらっている高齢者の方々もいるのではないか。

初回の購入時のみに一部助成はできないか。

**A** 身体障害者福祉法において、国の統一した基準のもと、日常生活に支障があると判断された聴力レベルの方は、聴覚障害者として、補装具費支給がなされており、高齢者の認知症対策の一つとして、補聴器購入への町独自の助成は、現在のところ考えていない。



令和8年の出初式

**Q** 本町のインフルエンザ予防接種費用は、小児（生後6カ月から3年生まで）が、令和7年10月から令和8年の2月28日までの期間に接種すると、接種費用が無償になる。また、高齢者は、65歳以上が対象者となり、2千200円でインフルエンザ予防接種ができる。  
小児や高齢者がインフルエンザに

接種費用一部助成は有用な  
取り組みと考える

山上 町長

消防団へのインフルエンザ  
予防接種の助成を求め

濱崎 幸徳 議員

録画放送はこちらから

かかると、命に係わることになることから、インフルエンザ予防接種の助成は、本町の大切な医療サービスのひとつだと思っている。

インフルエンザ流行期には、乾燥して火事も増加、1月には左底郷で火災があり、消防団の皆様の懸命に働く姿を見て感心した。

一番火災が起こる時期に、インフルエンザにより体調を崩せば、消防活動に支障が生じる。

本町の助成医療サービスを、消防団員まで対象者を拡大できないか、町の見解を求め。

**A** 消防団は、火災の消火活動、台風など風水害への備えや対応など幅広い分野で、地域を守るための取り組みを行っており、私たちの地域の安全・安心のためには、無くてはならない存在である。

消防団員は、各自の仕事に就きながら、訓練・防火啓発活動などを行っており、活動を維持するためには、健康維持により、災害等における消防力の確保及び処遇の改善による消防団組織の安定維持を図る必要があることからインフルエンザ流行期において、体調を崩して火災現場等で消火活動に従事できない消防団員を少なくするためにも、インフルエンザ予防接種に係る費用の一部助成は有用な取り組みと考えており、導入に向けて研究していく。

本町の重点支援交付金の使途は

プッシュ型の給付で速やかに行う

山上 町長

**Q** 今回、政府から本町への重点支援交付金の金額は。

**A** 総額3億1千250万3千円が示された。

**Q** 本町の交付金の使途と金額は。

**A** 「水道・下水道及び浄化槽基本料金減免事業」「町立小中学校給食食材費補助事業」を令和7年度と令和8年度に実施することを決定し、他に、「第2子及び第3子以降保育料無償化事業」「乳幼児・小中学生インフルエンザ予防接種無償化事業」「高齢者交通費補助事業」等に充当、総額3億1千250万3千円で、交付限度額と一致する。

**Q** 他の自治体は、交付金の使い道を新聞などに大々的に報じているが、本町も、もう一度広報などで知らせるべきではないか。

**A** 令和7年度補正予算及び令和8年度予算が可決したら、広報紙やホームページ等を活用し周知する。



本町はプッシュ型給付

**Q** 他の自治体では、プレミアム商品券を発行する所が多いようだが地元商店への支援として、プレミアム商品券の発行を考えていないか。

**A** 本町においてもプレミアム商品券の事業実施の検討を行ったが、業務委託が困難と判断した。

重点支援地方交付金の活用は、国から「迅速かつ効率的・効果的な実施の観点から生活者からの申請を待たずに給付を行うプッシュ型での支援を含め、速やかな支援や業務コストの削減を図ること」が求められていることから、町民からの申請を要しない「プッシュ型」の給付であること、また、迅速な事業実施が可能であり、さらに事務費がほとんどかからない「水道・下水道及び浄化槽の基本料金減免事業」と「町立小中学校給食食材費補助事業」をはじめ、各種事業を速やかに実施する。



森 孝太郎 議員



録画放送はこちらから

主体的な教育の現状は

主体性を育む指導を推進

相川 教育長

**Q** 子どもたちの自発的な行動や「自分で決める」場面の現状をどう捉えているか。

**A** 自分から進んで自発的に行動する力や、自分で判断し自分で決める力が不足している子どもが一定数いる現状がある。

そこで、学校では、行事やクラブ活動、児童・生徒会活動において、計画から準備、実施に至るまで、自分たちで話し合い、決定して取り組むことで、自主的、自発的な活動や



時津小学校役員シャツ  
何々したいの【たい】のあふれる学校を目指す!!

「自分で決める」力を育てている。

**Q** 教員が子どもたちの「自己決定」を促すための温かい見守りや、チャレンジを評価する姿勢をどう指導・支援しているか。

**A** 「教えるべきところ」と子どもに任せるところを明確にしたうえで、子どもたちが自ら課題を見つけ、協動的な学びの中で答えを導く授業のあり方についての研究に取り組む等、全ての町立学校において、子どもたちの学習意欲を高めながら、課題解決学習に取り組む「自己決定力」を育む研究を進めている。

**Q** 「子ども基本法」に基づき、授業改善への主体的参画が求められているが、町の現状と今後の展開は。

**A** 本町では、子ども一人ひとりが学習の主体となり、生徒同士の対話や協働を通じて、知識・技能を活用しながら思考を深めていく学びの在り方「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けて、様々な工夫を凝らした授業づくりに取り組んでいる。

**Q** 子どもの好奇心を育み、自ら学ぼうとする意欲を高めるため、学校は、家庭や地域とどのように連携しているか。

**A** 子どもが「何かを知りたい、何かをしたい」とか「これは何だろう」「どうして」「なぜ」等、好奇心や興味・関心を示した時に、その意欲の芽を潰さず、子どもの「知りたい」という欲求を受け止めながら、「ともに学ぶ親子の姿勢」の大切さをPTA等の機会を捉えて保護者へ啓発していくことが重要と考える。

学校と地域との連携については、学校運営協議会を通じて、地域活動においても、地域の大人たちが子どもたちに「してあげる」から、「任せて見守る」という姿勢へ、意識の転換を図ることを共通理解とし、子どもたちが企画から運営まで、主体的に活動できる場を設けて預くように働きかけをしている。

若者に町の魅力は伝えられているか

オフィシャルアンバサダー制度を活用する  
山上 町長

**Q** 町の強みをどのように認識し、他の自治体と差別化できる核となる魅力は何か。

**A** 「海と山が身近にある自然環境」と「生活の利便性」の両方を備えていることが、他の自治体と差別化できる核となる魅力だと思われる。



ヒロスケ・ヒロノブの時津歴史さんぽ

さらに長崎市から車で約20分という距離にあり、大型商業施設や医療機関など生活に必要な機能が身近に揃い、加えて長崎空港からのアクセスも良く、県内の周遊動線の中で、立ち寄りやすい立地にあることは、交流人口の拡大という面でも大きな強みであると認識している。

**Q** 埋もれている地域資源をどう伝えていくか。

**A** 令和7年10月から放送している「ヒロスケ・ヒロノブの時津歴史さんぽ」では、歴史やまち歩きに詳しい山口広助さんの協力を得て、埋もれた資源を掘り起こし、分かりやすく、楽しく紹介して貰っている。

また、令和7年10月に公開したデジタルイラストマップ「時あるきマップ」では、史跡や景観、飲食店の情報などを視覚的にわかりやすく発信する取り組みを行っている。



航空写真による商工業地



中原 ゆう子 議員



録画放送はこちらから

積極的な企業誘致を

民間開発の誘導を図っていく

山上 町長

Q 働く場の創出のために、『積極的な企業誘致』はされているか、加えて今後の計画を伺う。

A 時津町は、国道206号・207号並びに時津港を要した交通立地に恵まれ、土地区画整理事業などの都市基盤整備により、魅力のある商工業用地が供給され、多くの企業が進

出している。

令和5年には西彼杵道路時津工区が開通し、整備中の長崎南北幹線により、更なる交通立地の向上が見込まれることから、商業用地の未利用地がほとんど無い状況である。

企業誘致については、長崎県産業振興財団と連携し取り組んでいる。

しかしながら現在のところ、情報を提供できる案件がない状況。

今後、交通立地を必要とする運送業などの流通施設の立地を可能とする幹線道路の沿道については、民間開発の誘導を図っていく。

人権擁護推進委員などの処遇改善を

人権擁護推進委員は関係機関と共に対応していく

山上 町長

Q 『人権擁護推進委員』『民生委員児童委員』『母子保健推進員』などのボランティア活動の方々の処遇改善を。

A 『人権擁護推進委員』は法務大臣から委嘱され、地域の人々の「人権相談」に取り組んでいただいている。

『民生委員児童委員』は厚生労働

大臣より委嘱、高齢者や子育て世帯など地域住民の福祉向上へ取り組んでいただいているが、給与や報酬は支給されておらず、活動に係る実費

相当分が支給されている。

『母子保健推進員』は町長より委嘱され妊産婦とその家族をサポートし、行政とのパイプ役を担っていたため、本町独自の手当を定めているが、十分という認識ではなく、関係機関とともに活動費などの支援を行う。

『日並左底線』に信号機設置を

現状では設置の可能性は低い

山上 町長

Q 『日並左底線』左底側の出入り口に信号を設置すべきと思うが、町の考えは。

A 本町北部地域と中心部付近を結ぶ『日並左底線』は、開通により、町内の交通ネットワークの円滑化が図られ、大規模災害時でも安全に通行できる重要な道路である。

『日並左底線』左底側の設置については、令和6年12月に時津警察署に要望書を提出したところ、一現況及び将来推計交通量は、設置の必要性は低いと判断する」との回答も受けている。

本町としては、開通後1年を経過する4月下旬頃を目途に、交通量を再調査したうえで、改めて警察との協議を実施することとしている。



混雑する交差点の改善を

Q 左底交差点は、朝夕だけでも歩行者だけが渡れる時間を設け、その後右折できるようにすれば、車がスムーズにはけると思うが、町の考えは。

A 左底交差点付近は、平日は通勤・通学の時間帯の午前8時前後や帰宅時間帯の午後6時前後に渋滞することから、その渋滞を避けようと町道『左底久留里線』を抜け、左底交差点から国道206号に左折侵入、または直進するのに加えて、周辺のマンション建設による車の流入量も増加している。

そこで、現状を踏まえ『歩車分離式信号』の設置が可能かどうか、時津警察署交通課に尋ねたところ、「車両に割り当てられる青信号の時間が減少し、結果的に更なる交通渋滞を招く恐れがあり設置は難しい」との回答であったが、今後も左底交差点の交通状況を注視し、協議していく。



古谷 文夫 議員



録画放送はこちらから

ごみの分別は適正か

周知を図り、積極的な取り組みを進めている

山上 町長

**Q** 時津・長与両町で、長与・時津環境施設組合が運営される中、燃やせるごみはクリーンパーク長与で、燃やせないごみ、プラスチック製容器包装、ペットボトル、びん・缶類などは時津クリーンセンターで処理されている。

時津から出るプラスチック製容器包装は、汚れたものが約10%、容器包装以外のものが約5%、それ以外の異物が8%あり、全体で約23%が不適物となっている。



プラスチックごみの状況

次に、ペットボトルに関しては、サラダ油や洗剤の容器、汚れたものが混入し、これらは異物として取り除かれ、クリーンパーク長与で焼却処分されている。

時津町の令和6年度の収集量は、102.14トンで、7.19トンが焼却処分されている。

長与町の場合は、124.71トンで5.89トンが焼却処分されている。

令和6年度のプラスチック製容器包装は、長与町で443.6トン、時津町で335.08トン収集されているが問題は、このうち汚れたものが約16%、124.45トンあり、これを焼却処分するのに1トン当たり2万6千円かかるので、3百23万5千7百円の経費がかかっており、ペットボトルについても汚れたものが両町で約6%、13.08トンあり、焼却処分されて3万80円の経費がかかっていると考えられる。これらのことを町民に知らせているか。

**A** これまで「不適物として排出されたごみの具体的な処理費用」や「長与町との比較」などは周知していないので、今後、長与・時津環境施設組合と協議を行い、正確な情報を確認し、他の自治体の取り組み事例などを参考にしながら、分かりやすく、効果的な周知方法など、研究を進めていきたいと考える。

引き続き、両町を含めた「構成町会議」において、ごみ処理費用の削減に向け取り組んで行く。

(注) 令和7年3月に両町のプラスチック製容器包装100袋を展開調査した結果の数字を使用しています。

街路樹周りを固まる土に

一年間の試験結果で判断する

山上 町長

**Q** 街路樹周辺の草取りについては、防草シートを敷いたり、竹チップを敷き詰めたりしたが決め手になっていないようだ。

固まる土(自然土防草剤)が良いということ、令和7年9月6日からテスト的に施工しているが、今のところ草は伸びてきていない。今後、環境美化のボランティア団体に固まる土を支給できるか。

**A** 導入からまだ半年しか経過していないので、少なくとも、1年間を観察期間として、高い防草効果が継続しており、将来にわたって、補修等の必要性がないと判断した場合には、支給したいと考える。

**Q** 街路樹が腐ったりして切り取ったら、周りのコンクリートブロックはどう処理するか。



コンクリートが盛り上がっている

**A** 撤去したところには、基本的には再び植樹をしないで、歩道内で段差が生じないように、コンクリートブロックも撤去してアスファルトもしくはコンクリートによる舗装を考えている。

**Q** 街路樹の根が盛り上がってコンクリートブロックを押し上げている所があり、歩行中やランニング中には危険であるがどんな対応を考えているか。

**A** 今回、再度、全路線の隆起状況を調査して、新たに9カ所で歩道に段差があり、歩行に支障があることが確認できたので、順次、早急に対応していく。

今後、安全で快適に道路を利用していただけるように努めて行く。



シニアクラブの補助金増額を

増額を決定している

山上 町長

「高齢者に夢と希望を」  
国も地方も超高齢化社会が到来する時代を見据え、「高齢者は功労者である」の視点に立ち以下の提言と併せ質問する。

**Q** 地域の高齢者健康づくりがシニアクラブ等に付託されているが補助金は充足しているか。

**A** 令和7年8月に、本町シニアクラブ連合会会長から、書面による補



スクエアステップ教室の様子

助金増額等の要望があり、状況を総合的に勘案し、補助金の増額を決定し、交付した。

**Q** 生きがいづくり研修事業の「貸切バス代」を町が代替できないか。

**A** 今年度からは、シニアクラブの要望などを踏まえ、「町が指定する施設」を1施設追加し、合計3施設に、1人当たりの補助率を5割から7割に拡大し、上限を3千円とした。

「町が指定する施設以外の施設」については、現時点では、「バス借り上げ料」の助成を行うよりも、引き続き「町が指定する施設」の拡大により、本事業の更なる充実を図りたい。

**Q** 独居老人宅に町独自の配食サービスを実現できないか。

**A** 令和8年度から、「高齢者向け配食サービス事業」を実施することとしている。

本事業は、本町に住所を有し、在宅で市町村民税非課税世帯に属する65歳以上のひとり暮らしの高齢者又は高齢者世帯の方を対象に、利用者1人につき、1週間に3回を限度として、栄養バランスのとれた食事を自宅へ届け、併せて安全確認も行う。自己負担については、1食当たり、500円程度を想定している。

本事業は、介護保険法に基づく任意事業との位置付けであり、「令和8年度介護保険特別会計予算」に係予算を計上した。

「唾飲城跡」を里山公園に

整備するには適地ではない

山上 町長

西時津郷の里山で長与町との分水嶺になる「唾飲城跡」一帯が雑木と藪だらけで荒廃し史跡にも拘わらず一般の人が立ち入れない場所になっている。

里山と史跡公園の位置づけで整備すれば、「新たな交流の場」として県内外から時津再発見で誘導が期待できるのではないかと、町の見解を問う。

**Q** 「唾飲城跡」を里山公園にできないか。

**A** 「唾飲城跡」までのルートについては、唾飲山の四方は急峻な崖地となっており、他のルートの活用は難しく、町道福島線とその先の既存の農道を活用するルートしかない。

里山公園として、長崎県の内外からの交流の場として多くの方が来園される場所として整備するとすると、それに対応できる施設の構造、規模、安全性を確保する必要があり、唾飲



唾飲城跡

山の麓から頂上までの地形や現状を勘案すると、整備するには適地ではないと考える。

**Q** 近郊「里山再生」の腹案があれば示して頂きたいがどうか。

**A** 里山は、自然と人の共生空間であり、山地の森林や河川、田畑などが一体となった地域で、かつて多くの地域で暮らしや文化伝統と密接に結びついた場所であり、生活・生業の場として、農林業などが行われてきた。

また、同時に、生物の多様性や生態系を維持する役割もある。

里山を構成していると考えられる大部分の森林や農地は、個人の所有になっており、まずは、所有者が適切に管理していくことが原則となる。里山再生に向けては、所有者や地元の方と協議しながら、利活用や安全対策を行っていききたいと思う。



浜辺 なみえ 議員



録画放送はこちらから

「ひだまり」スタッフの仕事内容は

体験学習や生活指導を行っている

相川 教育長

**Q** 学校に通うことができない子ども達の居場所となっている、教育支援センター「ひだまり」の受け入れ人数が拡大されることを歓迎する。「ひだまり」のスタッフの仕事内容や人数、常勤の専門職などの配置はどうなっているか。

また、「ひだまり」では給食を食べられるか。



環境が素晴らしい「ひだまり」

**A** 「ひだまり」では現在2名の指導員が子ども達の読書や学習、卓球などのスポーツの見守りの他、一緒に野菜栽培に取り組み、収穫して調理するなど、体験学習や生活指導を行っている。

来年度から隣の建物へ移転するのに伴い、定員を12名から18名に拡大し、指導員も1名増やして3名体制にする。

常勤の専門職は、配置していない。給食は、「ひだまり」の開所時間が午前9時30分から12時30分となっているので、行っていない。

**Q** 不登校の子ども達は、本町の図書館や児童館を自由に利用することができるか。

**A** 自由に利用することができる。

**Q** 昨年1月に厚労省が介護休業制度の基準の見直しを行い、不登校の子どもも介護休業の対象になることとした。

本町職員の介護休業においても、医師などから日常生活の介護が必要だと認められれば、不登校児童・生徒も対象となることを明確にするべきではないか。

**A** 本町職員の各種休暇制度については「仕事と家庭の両立支援ハンドブック」を作成・配布しているが、

不登校児童生徒が、「常時介護を必要とする状態」に該当し、職員が「対象家族」である場合には、介護休暇制度を利用可能である旨を明記し、配布することにした。

中学校も給食費無償化を

本町独自で無償化することは困難

山上 町長

**Q** 私が繰り返し求めてきた学校給食無償化が小学校では実現するが、中学校では実現できていない。中学生に対しても本町独自の支援として学校給食費の無償化に踏み出す考えはないか。

**A** 中学校では国が給食費無償化の制度設計がなされていないので、生徒1人あたり月額6千285円、全体で年額約5千500万円を本町独自で無償化にすることは、財政負担が大きく困難である。

介護利用料値上げやケアプラン有料化に反対を

国の動向を注視し、町村会に提案する

山上 町長

**Q** 利用者・事業者にいつそうの困難を押しつける利用料2割負担の対象拡大、ケアプラン有料化、要介護1、2の生活援助などを自治体の「総合事業」への移行について、2027年度の見直しを前に、本町として県内各町と連携をはかり、長崎県町村会を通じて国に対してこれらの制度改善をしないように要望する考えはないか。

**A** 国の動向を注視し、本町にとつてよりよい制度となるよう、町村会に提案をしたいと考えている。

**Q** 本町の訪問介護事業所が8から7事業所に減っているが、その理由は。

**A** 「不採算による事業所の廃止」ということだった。



ケアプラン有料化に反対を



「カキ焼き」イベントを計画しては

町主催の取り組みは  
考えていない

山上 町長

**Q** 令和7年12月定例会で質問し、今後、検討していける部分はあるとの回答だったが、反響がたくさんあったので、町の産業活性の活力剤になると確信している。

詳細な計画を県、町、漁協（漁業者）、商工会など関係者と連携して取り組む考えはないか。

**A** 町内や近隣市町で作られた農水産物や食べ物、雑貨、洋服などを販売するマルシェなどの運営を民間の実行委員会が企画して開催する場合



楽しいカキ焼き

について、ウォーターフロント公園で開催を希望される場合は、町としても地域振興や交流人口の拡大に寄与することから、ウォーターフロント公園の借用やPR・広報など開催の支援をしている。

提案のカキ焼きイベントについては、昨年12月の定例会において、時津町がカキの主要な生産地ではないことから、町が主催して取り組むことは考えていない旨を回答しているが、先ほど申し上げたマルシェなどの開催に対する支援と同様に、大村湾漁協や民間の実行委員会などが企画運営をして開催することについては、支援をしていきたいと考えている。

なお、ウォーターフロント公園の前は、波静かで風光明媚な大村湾が広がっているので大村湾のPRや地域振興の観点からも、是非とも大村湾産のカキによるカキ焼きの開催を期待している。

きくらげを町の特産品に

特産品として支援していきたい

山上 町長

**Q** きくらげを町の特産品にしようとして2022年5月に時津町きくらげ生産者組合を立ち上げ、現在は組合者数も21名になった。

町はきくらげを特産品の一つとして位置づけているが、どのようなPRをしているか。  
また、栄養価を含めたPRをしているか。

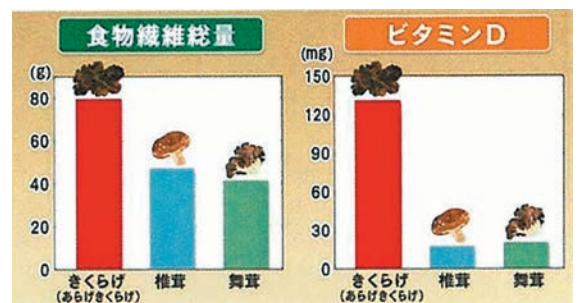
**A** 町としては、時津の特産品の販路拡大とブランド化に向けた支援をしており、きくらげについても、特産品の一つとして位置づけ、販売機会の創出や、情報発信の場の提供などの支援をしている。

昨年6月には、長崎スタジアムシティで開催された「時津町の時を楽しむマルシェ」、7月には、博多駅で開催された「九州ふるさと納税フェスタ」に出店され、生産者の皆さまに加え、戦略推進課の職員も参加し、時津産きくらげの魅力を広く発信してきた。

栄養価や機能性などの専門的な情報発信については、生産者や加工業者が主体となって取り組むものと認識している。

**Q** きくらげの栄養価を知ってもらうために、子どもたちに出前授業をすることを提案するが、教育長の考えは。

**A** 出前授業については、食育に関する授業の機会を利用して、子どもたちの認知度を向上させることができないうかが、学校側への情報提供を



きくらげの食物繊維・ビタミンD含有量は全食材の中でもトップクラスで、カルシウムや鉄分も豊富。

行っていききたい。

**Q** 小中学校の生徒に、夏休み期間を利用して、実際に栽培を体験してもらいたいが、見解は。

**A** きくらげの栽培体験については、児童生徒が地域産業への理解を深めるうえで有意義な取り組みの一つであると考える。

教育委員会では、夏休み期間中の地域産業への理解を深める取り組みとして、夏休みチャレンジ子ども教室の中で、町内の工場見学や職場体験も実施している。今後、学校や産業振興課とも連携を図りながら、きくらげの栽培体験を実施する上での教育的効果や実施体制について検討していきたいと考えている。



永田 博信 議員



録画放送はこちらから

英会話授業の進捗状況は

学校側と打ち合わせしている

相川 教育長

**Q** 中学生のオンラインによる英会話授業について、現在の進捗状況は。

**A** 来年度から町立中学校全生徒を対象に、英語の授業で導入するため、「英語コミュニケーション事業」と命名し、導入に向けた準備を進めている。業者選定については、これまでの公立中学校への実績をもとに、業者から資料を取り寄せ、整理し準備中。



佐賀県上峰町の授業風景

並行して、オンライン英会話を導入した際の英語授業のカリキュラム編成について、学校側との打ち合わせを行っている。

**Q** 実施に当たり、当面の目標は何処にしているか。

**A** 大きな目的は、英語に対する苦手意識の克服や思いが伝わった時の喜びや達成感を体験し、中学生全体の英語力の底上げを目指すもの。具体的な目標は、3年後の令和11年度の全国及び県学力テストにおいて、平均点が5点以上、上回ることに加え、中学3年生時点における英検3級程度の実力を持つ生徒の割合を現在の53.8%から60%以上まで引き上げたいと考えている。

**Q** 小学校の高学年などにも広げていく環境は整っていると考えられるが、今後の考えは。

**A** 小学校においては、3年生から週1時間5年生から週2時間の外国語授業が取り入れられている。本町としては、まずは来年度から客観的評価が得やすい町立中学校へ導入し、数年かけて生徒たちの反応や目的達成の度合い、費用対効果に関して十分な検証を行ったうえで、小学校への導入を考えていく。

地域の絆を深めるための事業の目的は

地域が連携し活動の活性化を図ること

山上 町長

全国的に地域での組織の衰退や縮小化が問題となっており、本町でも同様の問題が指摘されている。

公民館活動ばかりではなく、児童・生徒達への見守り活動にも影響が出ているようである。

**Q** 現段階で地域の絆を深めるための事業を予定している地区を把握しているのか、またその事業内容は。

**A** 令和8年度から、自治公民館活動費補助金の交付を予定している。要件は、自治会加入・未加入を問わず、地域住民が広く参加できるイベントであることや自治会未加入者への促進を行うことなどとしている。

具体的には、子々川地区の親子ふれあいグラウンドゴルフ、日並地区の三世交代交流会、左底地区の夏祭り、元村地区の秋祭り、野田地区のスポーツ大会、浦地区のペーロン大会の選手募集、西時津地区の大運動会、浜田地区合同での自治公民館バス研修などが予定されている。



時津町史談会

とぎつ散歩ガイドブック 製作費の全額補助を

全額補助は制度上できない

山上 町長

時津町史談会が、2年ほど前から進めてきた「とぎつ散歩ガイドブック」の改訂作業が進んでいるが、町の「まちづくり事業補助金」の活用では発行が難しい、そこで何う。

**Q** 「とぎつ散歩ガイドブック」の全額補助または、町による発行はできないか。

**A** 「まちづくり事業補助金」による全額補助は、制度上、公平性の観点からできない。

一方、町が推進する「歩くまちづくり事業」の一環として時津の歴史・文化・自然などの多様な魅力を発信していく施策の方向性と合致する内容であれば、本町の事業として時津町史談会との連携も考えられる。

# 時津公民館

## 絵手紙教室【つばき会】

山本桂子先生の指導のもと皆さん和気あいあいと、楽しんでます。

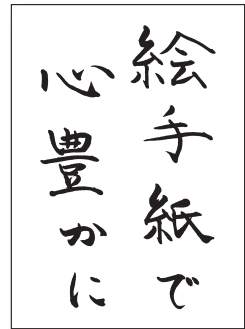
問い合わせ先 担当 林 ヨシ子  
090-8405-8026

### 吉原 糸み子

老後の楽しみにと  
始めた絵手紙  
素敵な仲間  
に出会えて  
気が付くと人生を  
楽しんでいる



### 山本先生



### 渡辺みゆき

何書こう？  
悩む時間も  
また楽し  
返信の絵手紙  
貰いなお感動



### 川久保常代

若い頃から  
車中泊の旅に出た  
感動する画を  
切り取り残したい  
その気持ちが  
絵手紙教室へ  
導いてくれた



### 中野いつ江



### 八谷 栄

70歳過ぎて始めた絵手紙  
「下手でもいいよ」って  
言ってもらい  
通い始めた絵手紙教室、  
すごく楽しい！  
せっかく見つけた宝箱  
つづけよ〜と♡



### 林ヨシ子

野菜の花や、道端の雑草が  
目に入る  
自然日和の良い日に外へ出て  
観察するのも喜し  
絵手紙にして友人へ



# 北部コミュニティセンター

## 陶芸クラブ【ひまわり・ポラリス】

現在、40代から80代の23名が在籍しています。  
圧倒的に、女性が多いのですが男性も頑張っています。  
技術の上達も大事ですが、それ以上に会員同志の親睦を大切にしています。  
週に一度、できるだけ休まないよう日々の健康に気を付け、アイデアに頭を巡らせるなど、陶芸を通して、余暇時間を有効に使っています。

『ひまわり・ポラリス』の日常会話

「やっとできたあ！」  
「思ったより小さかったねえ。」  
「良い色が出た。うれしい！」  
「だいぶ上達したね。楽しか。」



山田先生

二階堂先生



鳴北中学校3年生による

3月定例会の傍聴記録及び感想文

令和8年3月4日と5日の午前中、鳴北中学校3年生123名が、授業の一環で3月定例会の傍聴に来てくれました。いつもは傍聴者が少ないのですが、今回は鳴北中のたくさんの生徒の皆さんに来ていただいて、議員も張り切って一般質問に臨みました。後日いただいた生徒さんたちのコメントや感想を紹介します。

生徒さんたちの感想文

3年1組 中村 宗也

私は、町議会がどのような活動をしていて、私達にどのような影響があるのかイメージがつきませんでした。話し合われたことが私達の生活に反映されていることを知り町議会への関心が高まりました。

私は、小・中学校で金融の出前授業などお金の仕組みについての教育を取



初めて傍聴した議会

り入れてほしいと思いました。

小・中学生のうちから金融などのお金の仕組みについてイメージをもっておくことで、大人になって深く理解ができ、将来役に立つと考えたからです。行政は、地域の人の子どもに対する「やってあげる」から「まかせる」「見守る」という意識の転換をどのように実行しているのか知りたいと思いました。

3年1組 小谷 穂乃華

私は最初、町議会傍聴という言葉聞いても、今まで役場に行く機会もないことに加えて、自分の町の行政について何も知らなかったから「なんだそれ？」と思ったし、行く前に過去

の議事を見たときも「どうして」と、はてながつくことのほうが多かった。しかし、実際にその現場に何一つこの意見、質問に対する真剣な議論をされる様子を見てみると、「どうしたこと？」と思うよりも「ならこれはどうなんだろう？」と、はてなの内容が広い範囲から狭い範囲に変わって、自分の中でとても理解が深まったいい機会になった。

大きな議題が二つあり、その一つ一つに細かく質問があるのを知って、何回も何回も話し合いを重ねていて、議員さん達が時津町のためにしっかりと考えてくださっているのだと知って、ありがたいと思った。

このような機会は、自分自身の積極性を見直すことができるのもっとこういう機会を増やしてほしいなと思った。

初めてのことであったが、こういうことが当たり前じゃないので大切にしなければいけないなと思った。

議員さん1人ひとりが  
時津町の未来を担う  
重要な方だと知った。



3年1組

山川 颯真

3年2組 眞武 高弘  
今の時津町は埋め立て地を利用して商業が発展していることがわかりました。

商業の発展で企業が大量に進出してきたことで、労働力不足問題や交通の渋滞につながるという現状があるかわかりました。

この問題を解決するために本町は警察や県庁、ボランティアの方々、様々な課と協力することが大切と学びました。

65歳になり退職した人が利用する「シルバー人材センター」という施設があることも知りました。

そこで自分も将来の時津町がより良くなるために、次のことを考えました。

- ① 交通道路を発展させる。
- ② 交通渋滞が無くなり、人が住みやすくなる。
- ③ 人が増えたことで消費量も増え、運送力も上がる。
- ④ 経済が発展。プラス活発な町へ

3年2組 松本 心愛

とても良い経験になりました。

町議会は、何を話し合っているのか、私たちの暮らしにどう関わっているのか、以前の私は知らなかったのですが、時津がもっとより良くなる過程を見させていただき、とてもうれしくなりました。

時々、議会だよりや時津町のホームページを見ていて、知っている議員さんたちがいらっしやったので、感動しました。

町民からの意見を取り入れて議会が行われており、私たちにとって議会は身近なものであることがわかりました。私達若者に関することも、一生懸命意見を述べてくださっていて、とてもうれしかったです。

私も時津に協力できそうなことがあったら積極的にやっていこうと思いました。

自分たちが町議会に興味を持ち、積極的に参加することが大事!!



3年2組  
松本 大河

3年3組 井上 昊大

時津港にもう少し飲食店などが欲しいと感じていたので、カキなどの水産物を使ってイベントをしたり海上レストランを作ったりできれば、時津の特徴を活かした経済発展ができると思う。時津港を拠点に最初は楽しんでもらって、その後いろいろな場所に行くにはもう少しバスなどの交通網を充実

してほしい。  
（したほうがいいと思った）

きくらげの話を聞いて食べてみたいと思ったけど、手にする機会がないのもう少し身近に買える場所が欲しい。

3年3組 富永 菜桜  
町をより良くするために活気のある話し合いだと思った。

また、私たちが過ごしていく中で便利になることなども話し合われており、とてもありがたいと思った。

提案に対しての答弁や議員の方の町をより良くしたいという思いがすごいと思ったし、これからさらに町が活気づいていくと思った。

きくらげやかき焼きのイベント、どれも楽しそうだと思った。

もしそのようなイベントや活動が今後あるなら、自分から積極的に参加して、町をより活性化させられるようにしたい。

「町の未来を変える」ということを身近に感じることができた。



3年3組  
江頭 叶太

3年4組 峰 楓斗

私は、今回の町議会傍聴で議会について気付いたことがあります。

一つ目は、議会の雰囲気です。重苦しい空気が感じられず、むしろ未来の時津町に向けて頑張るといいう明るい空気が流れているように感じました。

二つ目は、議会の進め方です。最後まで話をしてから質問に移っており、議会の流れがしっかりしていると思いました。

議題の『オンラインを使って英会話授業を行うこと』について驚いたことがあります。

これを実施しての目標は、『テストの平均点を5点上げること』で、それは学校側がすることと思っていたので意外でした。

また、議会は資料だけを使って行うのだと思っていました。

しかし、自分が体験した出来事も踏まえて自分の考えを発言し、根拠のある説明になっていました。

今回の町議会傍聴を通してこれまでの町議会に対するイメージが大きく変わりました。

3年4組 中山 涼花

話し合いの雰囲気がとても明るく話しやすい空気でもとても良いと思いました。話の進め方もわかりやすかったです。

普段経験できないことが今回経験できてとても嬉しかったし、貴重な体験でした。

英会話授業の議題について、私はとってもいい案だと思いました。

外国人と会話することで絶対に成績は伸びると思うし、私だったら絶対経験したいと思います。

二つ目の地域活性化について、私ももっと行った方がいいと思います。

私は、久留里郷に住んでいて、「くるくる祭り」を実施していますが他にももっとしてほしいと思いました。

議員さんたちみたいに、僕達も町をよくするためにできることを考えたい。



3年4組  
中尾 伊吹

## 先生からのメッセージ

## 先生の熱い想いが実現する

鳴北中学校  
額 伸夫 先生

「総合的な学習の時間」の主眼は、地域課題を自分事として捉え、解決への道筋を探ることにあります。

今回、生徒たちと共に時津町議会の一般質問を傍聴し、その教育的意義の大きさを改めて実感しました。

議場に漂う独特の緊張感の中で、議員が住民の声を代弁し、町執行部と真剣に議論を交わす姿は、生徒たちの目に「生きた民主主義」として映ったことと思います。

教科書の中のであった「政治」が、自分たちの通学路や公共施設のあり方を決める身近な仕組みであると気付いた瞬間、生徒たちの表情が引き締まったことが印象的でした。

質疑を通し、多角的な視点から最善の解決策を探る対話の重要性を学んだことは、生徒たちにとって大きな財産となりました。

今回の傍聴を機に、自分たちの町に関心を持ち、社会の担い手として主体的に参画しようとする「主権者意識」が育まれることを期待しています。

貴重な学びの機会をいただき、心より感謝申し上げます。

鳴北中学校  
小西 厚子 先生

生徒たちに時津町議会をぜひ傍聴させたいという思いを抱いたのは、去年の秋ごろのことです。ちょうど3年生の

社会科(公民)の授業で、「議会のしくみ」や「歳入・歳出」について学習していました。

担当の額教諭がまさに私たちの住む時津町の(過年度の)歳入・歳出状況を資料として活用しながら、授業を進めている様子を見た時に、実際に町議会を傍聴できれば、町政がどのように検討され、運営されているのかをより具体的に理解できるのではないかと考えました。

加えて、3年生の総合的な学習の時間に「誰もが暮らしやすい『ふるさと時津』にするために」をテーマに地域学習を進めていたこともあり、時津町を取り巻く様々な課題や将来について考える機会となれば、それもまた地域貢献に繋がると考えました。

今回の傍聴は、生徒たちにとって貴重な体験となりました。

来年度以降もこのような学びの機会が継続され、若い世代を含め多くの人々がふるさと時津に関心を持ち、関わっていくことを願っています。

時津町議会議長  
山口 一三

## 鳴北中学校議会傍聴に感謝

当議会でも、主権者教育として、他自治体の視察研修を行い、議会傍聴や出前授業等を実施の方向で検討していたところ、今回の議会傍聴のお話があり、初めての議会傍聴の機会を作って戴き、教育委員会や学校関係者の皆様には心よりお礼申し上げます。

傍聴されました鳴北中学校3年生の皆さんは、メモをしっかりと取りながら真剣に傍聴して戴き、少しでも議会を身近に感じ取って貰えたと思います。

今回の傍聴された内容をご家族やご近所の皆さんに伝えて戴き、少しでも議会に興味を持って戴ければと思っております。

今回の議会傍聴を機に、今後とも継続して取り組んで戴ければ幸いです。

3月議会の傍聴者は、延べ151人(中学生 123名)でした。

次の定例会は、

令和8年6月2日(火)からの予定です。  
皆様の傍聴をお待ちしております。

議会開催中は、6月2日(火)より「時津町議会本会議」を同時放送します。

<https://togitsu-town.stream.jfit.co.jp>

時津町議会映像配信

検索

